

## SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムユーザーインタビュー

### ■AI パネル②

高木 健二（たかぎ けんじ） / 41 歳

- 属性： 福岡県福岡市中央区。経営者。独身。
- 美容タイプ： 美容高感度層
- 購入チャネル： 百貨店オンライン
- 購入の動機： 定期的に美容皮膚科に通うなど、セルフケアの基準が高い。リニューアル後の「引き締め」を強調した新処方に興味を持ち、ブランドスイッチした。
- 現状： 多忙な朝でもこれ一本でケアが完結する機能性を重視。ブランドスローガン「解き放て、本来のチカラ。」に自分自身の経営姿勢を重ねている。満足度は高いが、常に「もっと良い成分があるのでは？」と探求心は尽きない。

### <結果サマリー>

「自己管理の欠如」をリスクと見なす経営者の投資判断： 美容液に『ビジネス・パフォーマンスの維持』と『自己規律の象徴』を求める

#### 1. 美容についてのこだわり

対象者は 41 歳の経営者であり、美容を単なる身だしなみではなく、自己のパフォーマンスを最大化するための「資産管理」と捉えている。不確実な経営環境において、肌の状態を「唯一自分で 100%コントロールできる資産」と定義し、管理能力の証明として高い基準を課している。鏡の中の自分に「意志を感じる肌」を求める姿勢は、単なる若返り願望ではなく、自分を律し続ける経営姿勢そのものの反映である。

#### 2. 普段のスキンケアと目指す肌

効率を重視しつつも、肌への手応えには一切の妥協を許さない。朝は一本で完結する機能性を重視する一方、夜はクレンジングから念入りに行い、肌の状態を手のひらで確かめる時間を設けている。理想とするのは、清潔感と力強さが共存し、「パツと見たときに、この人は自分を律しているなど伝わる肌」である。肌の弛みを自己管理の欠如と見なし、内側から押し返すようなハリを維持することに強い執着を持っている。

#### 3. 現使用美容液購入経緯

これまでのケアに限界を感じていた際、ブランドが掲げる「解き放て、本来のチカラ。」という強いメッセージに共鳴し、アルティミューンへのスイッチを決断した。他社製品との比較もあったが、資生堂が提示するサイエンスへの信頼と、守りに入らない「攻めているエネルギー」が、自身の経営哲学と合致したことが決定打となった。単なる保湿ではなく、今の自分をアップデートするための「武器」を手に入れる感覚で購入に至っている。

#### 4. 現使用美容液使用実態と評価

使用感への満足度は極めて高く、特に塗布した瞬間に肌にピタッと吸い付く感覚を「浸透して、仕事をし始めた合図」として肯定的に捉えている。朝のケアは戦いへ向かうための「武装」であり、フェイスラインが整うことで経営者としての自信を補完している。現状に概ね満足しつつも、過酷なビジネス環境下で一日中状態をロックする持続性や、さらに基準を引き上げるプレステージな「一段階上の攻め」を熱望する探求心も覗かせている。

## 5. 今後の使用意向

現在の生活リズムと「引き締め」という目的に対し、これ以上の相棒は見当たらないとして、継続意向は極めて高い。5年後、10年後もエネルギッシュな顔でいることを期待しており、対象者にとってこの美容液は「自分の生き方の証明」を支える不可欠な装備品となっている。常に最新のサイエンスを注視しており、現状に安住せず、より高い投資対効果と圧倒的なエビデンスをブランドに対して求め続けている

## 1. 美容についてのこだわり

インタビュアー：

本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は高木さんのスキンケアや、日頃感じていらっしゃることに、ざっくばらんに話を伺えればと思っています。まずは簡単に、高木さんのご自身のことや、普段「美容」に関してどんなこだわりを持っていらっしゃるか、お聞かせいただけますか？

**対象者：** 高木です。福岡市内で会社を経営しています。仕事柄、人に会う機会も多いですし、自分自身のコンディションがパフォーマンスに直結すると考えているので、身だしなみや肌の管理にはそれなりに投資していますね。こだわり……そうですね。一言で言えば「基準を下げないこと」でしょうか。スキンケアに限らず、ジムでのトレーニングや食事もそうですが、40代になってから「何もしない」ことのリスクを強く感じるようになりました。肌が荒れていると、それだけで自分のコントロールが利いていないような気がして落ち着かないんです。

インタビュアー： 「基準を下げない」……。コントロールが利いていない気がして落ち着かない、というのは、具体的にどういった感覚なんですか？

**対象者：** 経営って、不確実なことの連続じゃないですか。その中で、自分の身体や肌の状態というのは、唯一自分で100%コントロールできる「資産」だと思うんです。鏡を見たときに肌がくすんでいたたり、ハリがなかったりすると、自分の管理能力を疑われているような、そんな感覚に陥るんですよね。だから、美容皮膚科にも定期的に通いますし、日々のケアも「ただ塗る」のではなく、自分を律するための儀式に近いかもしれません。

インタビュアー： ご自身を律するための儀式、ですか。その「儀式」の中で、今最も重点を置いていることは何ですか？

**対象者：** 今は「質感の維持」ですね。若い頃のような、ただ清潔感があればいいという段階は過ぎました。今は、内側から押し返すようなハリというか、肌が「締まっている」状態をいかにキープするか。そこが自分の今の基準になっています。

インタビュアー： 「肌が締まっている状態」を基準にされているのですね。

## 2. 普段のスキンケアと目指す肌

インタビュアー：

ありがとうございます。進めさせていただきます。高木さんが普段、朝と夜にどのようなステップでスキンケアをされているか、具体的なブランド名を含めて教えていただけますか？まずは朝のルーティンからお願いします。

**対象者：** 朝は時間が限られているので、効率重視です。洗顔は「SHISEIDO MEN」のフェイス クレンザーを使っています。そのあと、今は「SHISEIDO MEN」のアルティミューン パワライジング セラム、これ一本ですね。以前は化粧水と乳液を分けて使っていた時期もありましたが、今はこれの馴染みがいいので、基本的にはこれだけで完結させています。最後に、外出前には日焼け止め……これも「SHISEIDO MEN」のスティックタイプのものか、気分です「ラ ロッシュ ポゼ」を塗って終わりです。

インタビュアー： 朝はアルティミューン一本で完結されているのですね。では、夜はいかがでしょうか。

**対象者：** 夜は少しだけ手をかけます。クレンジングは「シュウ ウェムラ」のオイルを使って、しっかり汚れを落とすところから始めます。洗顔は朝と同じものです。その後に、またアルティミューンを塗りますが、夜は少し多めに使いますね。その後、乾燥が気になるときだけ「ドゥ・ラ・メール」のクリームを薄く重ね

ることもあります。ただ、基本はアルティミューンのあの「締まる感じ」が好きなので、それを邪魔したくないという気持ちが強いです。

**インタビュアー：**「邪魔したくない」……。アルティミューンの「締まる感じ」を、他のもので上書きしたくないという感覚ですか？

**対象者：**そうですね。ベタつくのが嫌いというのがありますが、あの美容液を塗った直後の、肌がキュッと持ち上がるような、あるいは密度が上がるような感覚。あれが「ケアをした」という手応えそのものなんです。上から重たいクリームを塗りすぎると、その感覚がボヤけてしまう気がして。

**インタビュアー：**なるほど。毎日ではないけれど、時々行うようなスペシャルケア、例えば美容皮膚科以外でご自身で行うことは何かありますか？

**対象者：**週に一度、「SK-II」のフェイシャル トリートメント マスクを使います。これは経営者仲間に勧められてから習慣になりました。あとは、プレゼンや大事な会食がある前日の夜には、少し高価なアンブルタイプ美容液を投入することもあります。でも、結局は日々の積み重ねだと思っているので、飛び道具に頼るよりは、毎日のアルティミューンの精度を上げることの方が自分には合っています。

**インタビュアー：**高木さんが、こうした日々のスキンケアを通して、最終的に「こうありたい」と目指しているのは、どのような肌の状態なのでしょう。

**対象者：**抽象的かもしれませんが、「意志を感じる肌」です。年齢相応のシワがあってもいい。でも、弛んでいたり、手入れを諦めていたりする肌にはなりたくない。パッと見たときに「この人は自分を律しているな」と伝わるような、清潔感と力強さが共存している状態。それが理想です。

**インタビュアー：**「意志を感じる肌」。それは、高木さんにとって、具体的にどういった要素が揃うと「意志を感じる」ことになるのですか？

**対象者：**……（少し考えて）……やはり「ハリ」と「艶」のバランスでしょうね。テカテカしているのではなく、内側から発光しているような健康的な艶。そして、重力に負けていないフェイスライン。それが揃っていると、その人の生活背景や仕事への向き合い方まで透けて見える気がするんです。だからこそ、リニューアル後の「引き締め」を謳ったあの美容液には、すぐに飛びつきました。

### 3. 現使用美容液購入経緯

**インタビュアー：**

ありがとうございます。では、今お使いの「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」について詳しく伺いたいのですが、この商品を最初に知ったきっかけは何だったのでしょうか？

**対象者：**ニュースサイトか、あるいは経済系のメディアだったと思います。資生堂がメンズラインをリニューアルするという記事を目にして。もともと「アルティミューン」という名前自体は、女性用の有名な美容液として知っていましたし、経営者仲間でも肌が綺麗な奴が「あれのメンズ版はいい」と言っていたので、存在は認識していました。

**インタビュアー：**存在を認識されていた。そこから、実際に「買ってみよう」と思うまでには、どのようなプロセスがあったのですか？

**対象者：**記事を読んだあと、すぐに百貨店のオンラインショップで詳細を確認しました。ちょうどその時、これまでのケアに少し限界を感じていたというか……。美容皮膚科でレーザーを打てば一時的に肌は良くなりますが、日々の「顔の締まり」みたいなものは、やっぱり毎日の塗り物でどうにかするしかない。リニューアル後の処方「引き締め」に特化しているという説明を読んで、「あ、これは今の自分に必要だな」と直感的に思いました。

**インタビュアー：**「今の自分に必要」という直感。それは、具体的にどの言葉や情報が、高木さんのその直感を引き出したのでしょうか。

**対象者：**「解き放て、本来のチカラ。」というスローガンと、あと、タウリンとか、あの新処方成分に関する説明ですね。科学的なエビデンスを強調している感じがして。僕ら経営者は、根拠のないものは信じない。でも、資生堂というブランドがメンズに本気を出して、サイエンスを前面に出してきた。そこに「これなら裏切られないだろう」という信頼感を感じました。

**インタビュアー：**信頼感、ですね。購入を決める際、他のブランドや商品と迷うことはありませんでしたか？

**対象者：**正直に言うと、直前まで「クラランス メン」の美容液と迷っていました。あちらも引き締めには定評がありますから。ただ、最終的にアルティミューンに決めたのは、ブランドが発信しているメッセージの「強さ」です。クラランスはどちらかというと優雅で完成されたイメージですが、資生堂の方はもっと攻めているというか、これから戦いに行くようなエネルギーを感じた。今の自分の経営姿勢……守りに入らず、常に自分をアップデートし続けたいという気持ちに、アルティミューンの方が合致したんです。

**インタビュアー：**ご自身の経営姿勢と合致した。……そもそも、アルティミューンを使う前は何か使っていたのですか？

**対象者：**前は「キールズ」の美容液を使っていました。悪くはなかったのですが、少し「守り」のケアという印象が強くなってきて。保湿はしてくれるけれど、僕が求めている「肌を鍛える」とか「引き締める」という手応えとは少しズレてきた。それで、ちょうどリニューアルのタイミングで、完全にスイッチしました。

**インタビュアー：**「肌を鍛える」という感覚を求めてスイッチされたのですね。スイッチする際、何か期待していた変化はありましたか？

**対象者：**期待していたのは、朝の顔の「起和（おきわ）」というか。起きた時のむくみや、夕方の疲れ顔が、これを使うことでどれだけシャープに保てるか。そこを一番期待していました。

#### 4. 現使用美容液使用実態と評価

**インタビュアー：**

現在お使いの「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」について、具体的な使い方のこだわりを伺いたと思います。朝晩お使いとのことですが、つけるタイミングや部位、あるいは手の動かし方などで、意識されていることはありますか？

**対象者：**意識していること……そうですね。まずタイミングですが、洗顔後、肌が完全に乾ききる前の、まだ少し湿り気を帯びている状態でつけるようにしています。その方が、美容液が肌の奥まで引き込まれるような感覚があるので。部位としては、特にフェイスラインと目尻ですね。ここは念入りに。手の使い方は、指先で塗るのではなく、手のひら全体を使って、下から上へ「入れ込む」ようなイメージで圧をかけています。最後は必ず、ハンドプレスをして数秒間じっと待ちますね。

**インタビュアー：**「下から上へ入れ込む」ようにして、最後は数秒間待つ……。なぜ、そのような付け方を意識されているのですか？

**対象者：**美容皮膚科の先生に「肌は摩擦に弱いけれど、適度な圧で循環を促すのは良い」と聞いたことがあって。ただ塗るだけでは、成分が表面で滑っているだけのような気がして落ち着かないんです。手のひらの熱で閉じ込めて、自分の手で「締め、締め」と念じているようなところがありますね（笑）。自分の肌の状態を、手のひらの感覚で確かめる作業でもあります。

**インタビュアー：**手のひらで肌の状態を確かめる作業、ですね。では、この商品の満足度について伺います。5段階評価（5が最高、1が最低）で言うと、今はどの段階でしょうか？

**対象者：**「4」ですね。

**インタビュアー：**4。その理由というか、満足している点、あるいは「あと一步」と感じる物足りない点はどこにありますか？

**対象者：**満足しているのは、やはり「即効性のある使用感」です。塗った直後のあの肌の密度が上がる感覚は、他の製品ではなかなか味わえません。不満というほどではありませんが、「5」にならない理由は……もう少し「持続性」が欲しい。朝塗って、昼過ぎや夕方に鏡を見たとき、まだその「締まり」が維持されているかという、自分のコンディションやストレスの状態に左右されてしまう。どんなに過酷な会議が続いても、朝のあの状態を夜まで完全にロックしてくれるような強さがあれば、迷わず「5」をつけますね。

**インタビュアー：**どんなに過酷な状況でも、朝の状態を「ロック」してほしい。……それ以外に、この商品で気に入っている点がありますか？

**対象者：**ボトルのデザインも気に入っています。赤と黒のグラデーションが、どこかエネルギーを感じさせる。洗面台に置いてあるのを見るだけで、「よし、やるか」という気分させてくれる。機能性はもちろんですが、こうした情緒的な部分での充足感も、僕にとっては重要です。

**インタビュアー：**「よし、やるか」という気分。……高木さんにとって、このアルティミューンの「最大の魅力」を一言で表すと、どんなことだと思われませんか？

**対象者：**「自分自身のポテンシャルを信じさせてくれる相棒」でしょうか。単に肌を綺麗にするツールではなく、自分の内側にある力を引き出してくれる。そんな信頼感こそが最大の魅力だと思います。

## 5. 現使用美容液 今後の使用意向

**インタビュアー：**

ありがとうございます。それでは最後のパートとして、今後のことについて伺わせてください。高木さんは、この「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」を、今後も使い続けたいと思われませんか？ こちらも5段階（5：ぜひ使い続けたい、1：全く思わない）で教えてください。

**対象者：**これは「5」ですね。使い続けたいと思っています。

**インタビュアー：**「5」ですね。その理由と、使い続けることで肌やご自身にどのようなことを期待されていますか？

**対象者：**理由は、今の自分の生活リズムや、肌に求めている「引き締め」という目的に対して、これ以上にフィットするものが現時点で見当たらないからです。使い続けることで……そうですね、5年後、10年後の自分が、今と変わらない、あるいは今以上に「エネルギーで、意志の強さを感じさせる顔」でいられることを期待しています。老いに抗うというよりは、自分のポテンシャルを最大限に維持し続けたい、という感覚です。

**インタビュアー：**「5年後、10年後も、今以上に意志の強さを感じさせる顔」でいたい……。そんな中で、今、他に興味を持っている美容液やブランドはありますか？

**対象者：**正直、常にアンテナは張っています。「ディオール オム」のラインや、最近だと「カネボウ (KANEBO)」の黒いシリーズも評判がいいと聞くので、気にはなりますね。もし、アルティミューンよりもさらに「攻め」の姿勢や、圧倒的なサイエンスを感じさせるエビデンスが出てくれば、試してみたいという探求心はあります。

**インタビュアー：**「圧倒的なサイエンスを感じさせるエビデンス」ですか。……最後に、このアルティミュー

ーンに対して、あるいはブランドに対して、何か要望や「もっとこうなればいいのに」と思うことは、どんな些細なことでも構いませんので、ありますでしょうか。

**対象者：** 要望……（沈黙）。先ほどの「持続性」の話にも繋がりますが、例えば、日中の過酷な環境下でも成分を放出し続けるような「時間差攻撃」的な機能があったら面白いですね。あとは、僕のような経営者層向けに、さらに成分を濃縮した「プレステージ・ライン」のようなものがあれば、価格が高くても迷わず手に取ると思います。

**インタビュアー：** 「時間差攻撃」や、さらに濃縮された「プレステージ・ライン」……。高木さんにとって、そこまでして肌を「高い基準」で保ち続けることは、人生においてどのような意味を持っているのでしょうか。

**対象者：** ……僕にとって、肌は「自分の生き方の証明」なんです。どれだけ忙しくても、どれだけ困難な状況でも、自分をメンテナンスし、整え続ける。その積み重ねが、顔に出る。アルティミューンは、その「戦い」を支えてくれる装備品のようなものかもしれませんね。

**インタビュアー：** 自分の生き方の証明、ですか。……お話、よくわかりました。

以上で、全てのインタビュー項目が終了いたしました。貴重なお話をありがとうございました。

#### <追加>

**インタビュアー：**

高額なブランドやプレステージラインへの関心が高いとのことですが、エステや美容医療をさらに積極的に取り入れることはお考えではないですか？ 最近では、若い男性がわざわざ韓国まで美容医療を受けに行くといった話も耳にしますが。

**対象者：** 美容医療に関しては、先ほども少し触れましたが、すでに定期的に通っています。レーザーやピーリングなど、いわゆる「土台」を整えるためのメンテナンスですね。ただ、韓国まで行くかと言われると……（少し考えて）……今のところ、その選択肢はないですね。

**インタビュアー：** その選択肢はない、というのは？

**対象者：** 効率とリスクの問題です。経営をしていると、時間は何よりも貴重なリソースですから。わざわざ海外まで行って、ダウンタイム（施術後の回復期間）のリスクを抱えながら時間を費やすのは、僕のスタイルではありません。それなら、信頼できる国内のクリニックで、自分の肌質を理解してくれている先生に任せる方が、トータルのパフォーマンスが高い。若年層の彼らとは、おそらく「美容」に求めている投資対効果の定義が違うんだと思います。

**インタビュアー：** 高木さんにとっての「投資対効果」ですね。では、エステについてはどうお考えですか？

**対象者：** エステは……正直、あまり行かないですね。マッサージやリラクゼーションとしては良いのかもしれませんが、僕が求めているのは「癒やし」ではなく「結果」なんです。美容皮膚科の医療的なアプローチか、あるいはアルティミューンのように毎日自分の手で「締める」という実感を伴うケア。そのどちらか、あるいは両方の掛け合わせこそが、僕にとっての正解です。

**インタビュアー：** 癒やしではなく「結果」。……その「結果」を求める高木さんにとって、今のクリニックでの施術と、日々の美容液でのケア。この二つの役割分担は、ご自身の中でどう整理されているのですか？

**対象者：** クリニックは「地盤改良」です。自分ではどうしようもない深い部分の不具合を修正してもらう。それに対して、アルティミューンなどの日々のケアは「ビルメンテナンス」ですね。どんなに地盤が良くても、日々のメンテナンスを怠れば、外観はすぐに劣化する。特に僕の場合、毎朝のケアで自分の「顔を仕上げる」ことが、仕事に向かうためのメンタルセットに直結していますから。クリニックに行くだけでは、この「毎朝の覚悟」は作れないんです。